ICIC News

International Cartographic Information Center News

Vol.27 No.1 通巻101号 2022年5月1日発行

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 神保町センタービル5階
Tel.03-3262-1486 Fax.03-3234-0872 E-mail info@chizujoho.jpn.org
編集・発行　一般財団法人地図情報センター

巡検・セミナー開催のご案内

令和４年度の巡検・セミナーについては、新型コロナウイルス感染状況やワクチン接種などを判断しながら安全に留意し実施する予定です。当面、屋外巡検、屋外（もしくは換気が十分な室内）での昼食や休憩を検討します。現在、久里浜、小湊鐵道検討中。

展覧会情報

空から見た港区 ～東京タワーができる頃

期　間　4月23日～6月19日
会　場　港区立郷土歴史館（東京都港区）
電　話　03-6450-2107

企画展「経度緯度 世界共通の正確な「ものさし」へ－世界測地系導入20年－」

期　間　3月23日～6月26日
会　場　地図と測量の科学館（つくば市）
電　話　029-864-1872

鉄道博物館100年のあゆみ 1921-2021

期　間　3月19日～7月3日
会　場　旧新橋停車場 鉄道歴史展示室（東京都港区）
電　話　03-3572-1872

城絵図と町絵図

期　間　前期5月10日～6月18日、後期6月28日～8月6日
会　場　千秋文庫（東京都千代田区）
電　話　03-3261-0075

鉄道網から読み解く近代日本

期　間　4月23日～8月28日
会　場　ゼンリンミュージアム（北九州市小倉北区）
電　話　093-592-9082

mini地図NEWS

▶ ウクライナの地名の読み変更

外務省は2022年3月31日、ウクライナの地名の読みをロシア語に由来するものからウクライナ読みに変更する。変更する主な地名（（）内は旧地名）は、キーウ（キエフ）、オデーサ（オデッサ）、ドニプロ（ドニエプル）、チョルノービリ（チェルノブイリ）。また、リヴィウ、マリウポリ、ミコライウ、ザポリッジャは既にウクライナ語だったので変更しない。なお4月1日以前から外務省はハリコフではなくハリキウの表記をしていたため、これも変更なしとなった。ウクライナ国営通信社「ウクルインフォルム日本語版」のウクライナ地名のカタカナ表記は、その他にリウネ（ロブノ）、ルハンシク（ルガンスク）なども記載されている。

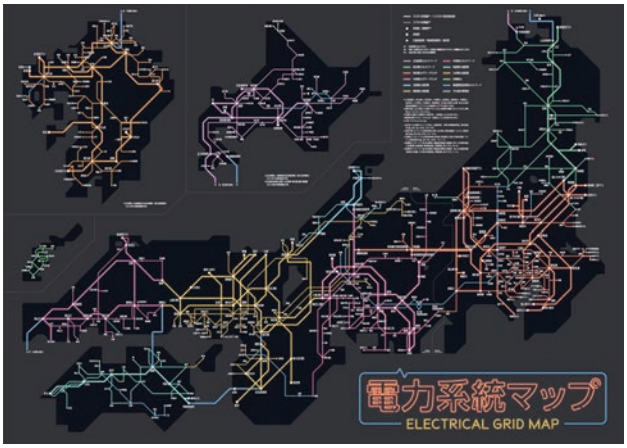
▶ NEXCO中日本、SA、PA配布の“紙の地図”廃止

NEXCO中日本と中日本エクシスは2022年3月22日、SA・PAで配布している「サービスエリアガイド」などの紙媒体をデジタルサービスに切り替えると発表。情報誌「高速家族」も発行を終了し、デジタルに全面移行する。従来からSA・PAの情報を配信していた公式スマートフォンアプリ「わくわくハイウェイ」をバージョンアップする。（乗りものニュース、写真はetc-web）

SAやPAで必ずもらっていたエリアガイドも過去のものに

▶ 日本の「電力系統マップ」

@chizutodesign氏が作成した電力系統マップが美しいと評判だ。同氏のTwitter「地図とかデザインとか」には各電力会社別の拡大図や各電力会社が公開しているページへのリンクを掲載した参考文献一覧などが載っている。需給逼迫が身近になった現在、電力自由化で電力の安定供給がいかに重要かがわかる地図ではないだろうか。（Gigazineほか、図は同氏Twitter）



関東～中部間が周波数50Hz、60Hzの境界線

地　図　絡　み

川崎市高津区久地円筒分水

（一財）地図情報センター 監事　伊藤 等

はじめに

地理院地図を拡大縮小、Web情報検索しながら現地を想像するのは楽しいことではあるが机上巡検では物足りない。やはり紙の地形図、写真機、水筒持参で現地に出かけたくなる。

いざ！久地円筒分水へ

令和4年3月23日（水）、意を決し現地へ（かなり大袈裟）。その前に川崎市役所ホームページから引用（一部加除）。

「江戸時代、二ヶ領用水は多摩川から取水（上河原堰、宿河原堰）され高津区久地で合流し久地分量樋へ導水。四つの堀（久地堀、六ヶ村堀、川崎堀、根方堀）に分水。久地分量樋は、樋（水門）により、決められた水を分ける施設だが正確な分水ができず水争い（水量）が絶えなかった。

昭和16年、「久地円筒分水」が造成。二ヶ領用水から取水し平瀬川の下を潜り、再び噴き上がった水を円筒の円周比により四つの堀に分水し正確に用水を供給。

この技術は、当時優れた自然分水方式として各地で同様のものが築造（平成10年、国の登録有形文化財）」とのこと。

引用：https://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000018473.html

写真：いずれも久地円筒分水（2022.03.23筆者撮影）

JR南武線津田山駅から出発

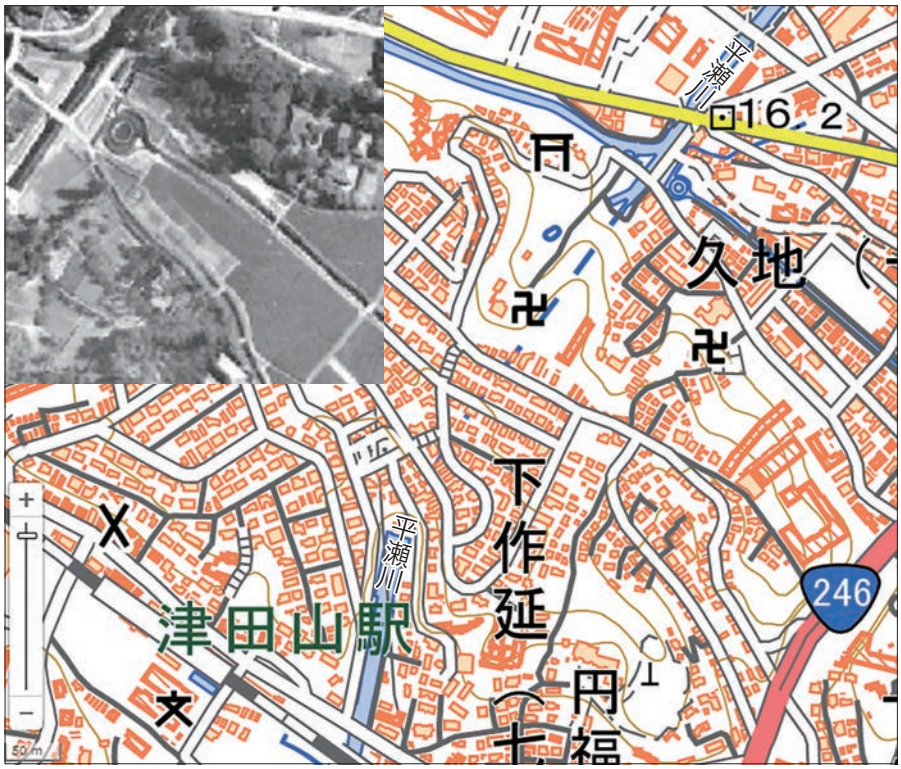
北口を東へ－中之橋（平瀬川）を北上－津田山第2公園を右折－3回階段を上り久地不動尊裏手の高台へ－久地不動緑道を下り－久地神社－再び平瀬川を渡ると久地円筒分水へ到着

円筒分水の本物をついに見た、さて

今後以下を拙宅にて検索してみたい。

・分水の仕組みは？
・同様の仕組みが何処に存在するのか？
・平瀬川は昔から図の様に流下していたのか？

（2022.3）



地理院地図：北東部の◎が円筒分水、北西-南東流が二ヶ領用水、航空写真は1945年頃南西–北東流が平瀬川。多摩川は図の北方に位置。